

甲賀地域青年農業者プロジェクト学習中間検討会の開催

11月28日、プロジェクト学習(経営改善研究活動)の中間検討会を甲賀合同庁舎で開催しました。プロジェクト学習とは、青年農業者が個々の農業経営上直面する課題に対して、研究実践活動を通じてその課題解決を図るもので、今年度、当管内では茶の新商品開発や在来大豆の施肥など、6課題(個人、グループそれぞれ3課題)に取り組まれています。

検討会では、各実践者が作成した資料(①課題を取り上げた理由、②進捗状況、③課題・問題点など)に沿って、これまで取り組んできたプロジェクト学習を報告してもらいました。その後、普及指導員や他の実践者からの質問や改善点の助言がありました。

いずれの課題も着々と課題解決に向けて進められており、日々の成果が現れていました。プロジェクト学習に初めて取り組まれたイチゴの定植適期の課題では、効率的な収量調査の方法や取りまとめ方について、茶の剪枝の課題では初めて聞いた人が理解できる説明の仕方など、それぞれ幅広い助言が出されました。

参加者からは、他の実践者の進捗状況を聞いたことで、「今後もさらに発表に向けて頑張っていきたい」といった声上がるなど、さらなる取り組みへの意気込みが感じられました。

当課は、今後もプロジェクト実践者の課題解決に向けてアドバイスをを行い、実践者の課題解決につながるプロジェクト学習になるよう支援します。



青年農業者から取組課題の発表



発表に対して熱心に質疑

プロジェクト学習課題
イチゴの年内収穫を実現するための定植適期の検討
剪枝の時期・深さの違いが翌年一番茶の収量を決定する秋芽の性質に及ぼす影響
しもかぶりの前作の違いや施肥が収量に及ぼす影響
地元企業との連携による酒米を利用した6次産業化の検討
刈下を活用した新商品の開発
金時ニンジンの発芽率向上